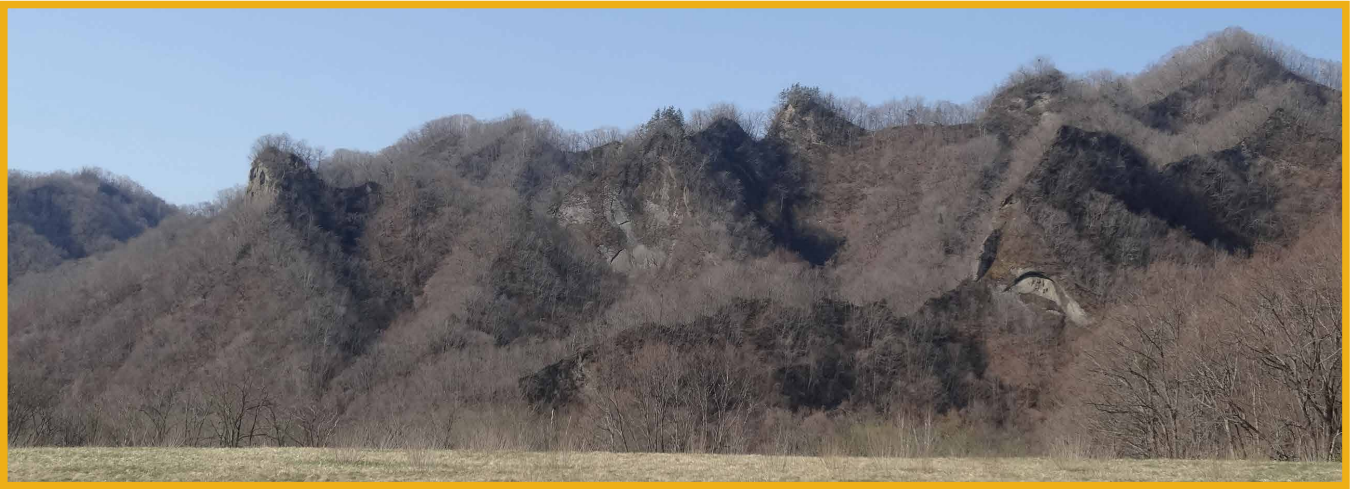


# 重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 10—

ムイノカ（重要文化的景観G区域：三井沙流山林南区域に所在） \*ムイノカ=箕・の形象

平取外2町衛生施設組合<sup>におい</sup>荷負<sup>ぬかびら</sup>最終処分場から額平川を見た正面の山に、半円状に欠けた岩塊<sup>がんかい</sup>が見えます。オキクルミの妹（アイヌ伝承の中では妻のことを妹と表現）がアイヌの世界から去るときに忘れていったムイ（箕）が岩になってそのまま残ったと言い伝えられている場所です。隣接するオキクルミのチャシとセットの景観として視点場からは眺望<sup>ちょうぼう</sup>できます。

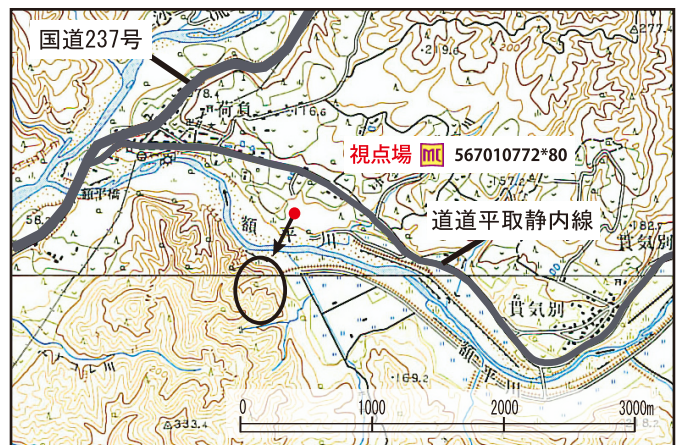
ムイはヒエやアワといった穀物を選別するための大事な道具です。穀物はアイヌの世界が飢饉<sup>ききん</sup>に見舞われたときに、オキクルミの妹が「ヒエのご飯」を配って歩いたと言い伝えられるほど重要視される食材です。荷負の山でムイノカを見たり博物館でムイを確認することで、アイヌの伝統的な暮らしをより楽しく学習できます。合わせて平取地域イオル再生事業で行っている山菜・穀物収穫体験に参加すれば、ヒエなどを用いたアイヌの食文化をもっと身近に感じとれるようになります。（長田佳宏）



ムイノカを含む周辺の山林は平成28年3月1日に三井沙流山林南区域として平取町の重要文化的景観(国文化財)に選定された。



平取地域イオル再生事業で行われている穀物収穫体験。



伝承地は三井物産の社有林内に所在しており、平取町と連携しながら重要文化的景観の保全を推進している。